

事務所名	中部教育事務所	学校名	西和賀町立沢内中学校	電話	0197-85-2130
------	---------	-----	------------	----	--------------

岩手県学習定着度状況調査の分析を活用した校内研究の推進にかかわる取組

1 実践の経緯

本校では、平成 24・25 年度に西和賀町の研究指定を受け、学校公開及び岩手県教育研究発表会において研究成果を紹介してきた。本校の研究は、県学調等の具体的データから生徒の実態把握や課題の洗い出しを行い、それをもとに教科毎の具体的な研究課題を立て、課題解決に向けた手立てを構想することからスタートしている。教科毎の実践は、教科の垣根を越えたチームによる課題・手立ての検討や、全職員による授業研究会によって、内容の共有を図ってきた。以下、国語の実践を例に示す。

【平成 24 年度の県学調の分析から】(中 1・2 共通課題事項)

問題番号 20 表現の特徴をとらえて読む

中 1 正答率 55.6 県比 74.9 (-25.1)

中 2 正答率 18.2 県比 37.3 (-62.7)

- 中 1 は、上位層の正答率が高い。上位層による引き上げが期待できる。中 2 は全体的底上げが必要である。
- 「国語の学習用語」の具体的な指導が必要である。
- 授業を通して感じるのだが、生徒の使用する語彙が少ない。それが問題の読み取りにも影響している。

問題番号20	中1	中2
1	22.2%	42.4%
2(正答)	55.6%	18.2%
3	11.1%	12.1%
4	5.6%	27.3%
無回答	5.6%	0.0%
集団別正答率	中1	中2
G1(上位25%層)	100%	37.5%
G2(中上位25%層)	60%	25%
G3(中下位25%層)	50%	25%
G4(下位25%層)	33%	0%

【課題の設定】

文学的文章における「表現の特徴」に気をつけながら読むことができるようになるための指導はどうあればよいか。

【解決の手立て】

- ①文学的文章において、表現の特徴に注目し、その効果について考えたり表現のもつ良さを評価し合ったりする授業の展開
- ②文学的文章において、表現の特徴を課題として複数の作品を読み比べる授業の展開
- ③表現の特徴にかかわる「語彙」指導と教室掲示

【研究授業による手立ての具体化】

実践授業① 対象学年：3 学年

単元名 批評交流会をしよう

学習材名 「走れメロス」(光村図書 2 年) ※既習教材の活用

補助教材名 「大造じいさんとガン」(光村図書 小 5 年)・「カレーライス」(光村図書 小 6 年)

第一次 (1 時間)	第二次 (1 時間)	第三次 (1 時間)
主観的描写と客観的描写の効果に気付き、その効果について批評文を書き、交流する。		
○学習の見通しを持つ。 ○「大造じいさんとガン」「カレーライス」を比べて読み、主観的な描写と客観的な描写の違いを捉える。	○「走れメロス」の二場面を読み、主観的な描写と客観的な描写の効果を考えながら批評文を書く。	○批評文を交流する。

実践授業② 対象学年：3 学年

単元名 小説の展開や表現に着目した解説シートをつくらう

学習材名 「故郷」竹内 好 訳 (光村図書 3 年)

補助教材名 「故郷」藤井省三 訳

第一次 (2 時間)	第二次 (3 時間)	第三次 (2 時間)
小説の展開に着目し、図書館に掲示する解説シートを作成する。		
○学習計画を立てる。 ○作品の場面展開、あらすじをつかむ。	○意識の読み比べから、表現の効果について評価する。 ○表現の特徴から登場人物の人物像や心情を捉える。	○解説シートを作成する。

【研究の成果 平成 25 年度の県学調の分析から】

問題番号 20 表現の特徴をとらえて読む

	正答率		県比	
	H24	H25	H24	H25
中1	55.6	60	74.9	148.9
中2	18.2	64.7	74.9	103

合計正答率

	県比	
	H24	H25
中1	89.5	100.7
中2	89.5	98.1

集団別正答率

経年比較	H24 1年	H25 2年
G1(上位25%層)	100%	100%
G2(中上位25%層)	60%	75%
G3(中下位25%層)	50%	50%
G4(下位25%層)	33%	25%

- 問題番号 20、合計正答率共に昨年度を上回った。
- 経年で比較すると、中位層が育ってきていることがわかる。
- 表現の特徴を意識させることに成果がみられた。

2 平成 26 年度の取組

昨年度の研究推進体制のもと、平成 26 年度の研究も進めている。以下、数学での実践を例に示す。

【平成 25 年度の県学調の分析から】

正答率かつ県比が特に低い問題

番号	出題内容	県正答率	本校正答率	県比
6	「整数」の意味がわかる。	48.7	25.0	51.3
16	数量を文字を使って表すことができる。	41.0	20.0	48.8
20	単位量あたりの大きさ（速さ）を比較する問題の解き方を見て、どちらのほうが速いかを判断し、その判断の理由を説明することができる。	43.7	20.0	45.8

- (1) 「整数の意味が分かる」について →記述式
 - ・数学の用語の定着を図ったか
 - ・用語を使って発表する場面を設定していたか
- (2) 「数量を文字を使って表すことができる」について →記述式（無解答 2 名）
 - ・文字の表す意味の確認を行っていたか
 - ・公式を含め、どのような計算で求められるかの確認をしていたか
- (3) 「判断の理由を説明することができる」について →記述式（無解答 2 名）
 - ・根拠、理由を説明する場面を設定していたか
 - ・数学的な用語や式を用いて理由を示す問題に取り組ませていたか
 - ・解き方の過程について説明する場面を設定していたか

全般に言えることとして、計算の技能を中心として学習するために、途中の過程よりも答えを重視しがちであった。生徒自身による答え合わせを行っても、解答のみの答え合わせを行い、計算過程が違っていても間違いに気付かない状況であった。教科書の間を参考にしながら、過程の間違いに気付くことや正答であっても間違っ了解き方をしていないかを確認する場を授業の中、または授業外で確保する必要がある。

また、自分の解き方について自分自身で説明できる力を身に付けさせなければならない。文章問題では特に、問題文の数量を任意の四則演算に当てはめて解き、間違えたならば違う四則演算で解いてみるという試行により正答を求める傾向にある。なぜ、その方法（解き方、四則演算）を選択したのか理由を書かせる指導を取り入れることが必要と考えられる。

【課題の設定】

- (1) 数式の表す意味や立式の過程が発表できるようになるための指導はどうあればよいか。（継続）
- (2) 根拠を示し、理由や自分の考え方を説明することができるようになるための指導はどうあればよいか。

【解決の手立て】

- 授業 ① 基礎的な計算力および用語の意味の定着のために、小テストを実施する。(追加継続)
 ② 次時の内容に関わる予習シートを利用する。(継続)
 ③ Gアップシートを利用した理由や根拠の説明問題に慣れる。(新規)
 ④ 計算過程や理由、説明を発表する場面を、必ず一度は設定する。(新規)

- 授業外 ⑤ 小テストのための宿題
 ⑥ 次時の内容に関わる予習シート
 ⑦ Gアップシートによる復習

【研究授業による手立ての実践】

実践授業「文字と式」 対象学年：1 学年

問題番号 1 6 「数量を、文字を使って表すことができる」に関わる授業実践

※下線は解決の手立てに関わる部分

	学習活動	学習内容	指導上の留意点
導入 5分	1 <u>小テストによる前時の確認…①</u> 2 学習課題の把握	・教科書 p 60 の例 10 を参考に、 <u>文字式の表し方のきまりを確認するとともに、文字式の表す意味を想起する…①</u> ・学習課題を把握する。	・文字式は計算の式と結果を表すことを確認する。 ・積、累乗、商の表し方を確認する。
文字式の表している数量の意味を考えてみよう			
展開	3 文字式の表す数量の意味 4 <u>問題演習…②</u> 5 答え合わせ 6 同じ文字式が表す別の数量の意味 7 問題演習 8 別の数量の発表 9 本時の確認問題 10 <u>答え合わせ…④</u>	・教科書 p 60 の例 11 に取り組む。 ・教科書の問 12, 13 に各自で取り組む。 ・解き終わったならば、先生の所へ行き、答え合わせを行う。 ・全員で答えを発表し、確認する。 ・教科書の問 14 に取り組む。 ・解き終わったならば、先生の所へ行き、答え合わせを行う。 ・ <u>解答を発表する…④</u> ・同じ文字式 a b が表す他の数量を考える。 ・a b が表す他の数量について、先生のところへ行き確認を行う。 ・他の数量について発表する。 ・黒板に書かれた問題を解き、本時の学習内容の定着を図る。 ・解き終わったならば、先生の所へ行き、答え合わせを行う。 ・ <u>全員で答え合わせを行う…④</u>	・×や÷の記号を利用し、元の式を作るとともに、言葉の式で理解を促す。 ◇ <u>予習シートの答え合わせ…②</u> ・ <u>答えを導く過程を大切にしながら、正答かどうか確認する。</u> ・ <u>同じ文字式であっても、文字の表す意味や式の表す意味が異なることを理解させる…④</u> ◇ノートの答え合わせ ・a, b の表す意味を考え、結果が a b となるか確認する。 ・本時の学習内容を確認し、演習問題に挑戦させる。 ◇ノートの答え合わせ ・ <u>しっかりと全員で発表できる雰囲気を作る…④</u>
終末	11 本時のまとめ 12 <u>次時の予告…⑥</u>	・黒板により、本時の学習内容を確認する。 ・ <u>予習シートで次の学習内容を確認する…⑥</u>	

【研究の成果】

出題内容	H25			H26		
	本校 正答率	県正答率	県比	本校 正答率	県正答率	県比
4. 数直線上の点から、「整数」に対応する点をすべて選ぶことができる。(記述式)	25.0 %	48.7 %	51.3	50.0 %	44.1 %	113.4
14. 文字式が表す数量を、ことばで正しく表現しているものを選ぶことができる。(記述式→選択式)	38.9 %	70.5 %	55.2	83.3 %	70.7 %	117.8
19. 単位量あたりの大きさを比較する問題の解き方から、単位量を確認し、その大きさを正しく比較しているものを選ぶことができる。(記述式→選択式)	11.1 %	43.2 %	25.7	55.6 %	48.8 %	113.8

○4は、県正答率の比較から問題の難易度が高くなったと考えられるが、本校の正答率は伸びている。

出題内容	H25			H26		
	本校 正答率	県正答率	県比	本校 正答率	県正答率	県比
<u>1年</u> 17. 文字式の表している数量を読み取り、言葉で表現することができる。(記述式)	55.0 %	57.2 %	96.1			
<u>2年</u> 10. 文字式が表す数量について、言葉で正しく表現しているものを選ぶことができる。(選択式)				80.0 %	77.8 %	102.9

○文字式の意味について1年生から2年生の間に、繰り返し学習を行うことで、県の平均正答率が高くなる傾向にある。同様に本校の生徒についても、小テストや予習シートなどの繰り返し学習により定着しつつあるといえる。

3 学校全体としての成果（平成26年度岩手県学習定着度状況調査の結果から）

＜平成25年度との比較から成果が見られた教科＞

数学	<u>中1</u>	H25 県比 98.0 → H26 県比 112.2
	<u>中2</u>	H25 県比 77.3 → H26 県比 105.4
英語	<u>中2</u>	H25 県比 86.8 → H26 県比 112.7
国語	<u>中1</u>	H25 県比 98.1 → H26 県比 105.9
社会	<u>中2</u>	H25 県比 88.7 → H26 県比 99.3
理科	<u>中2</u>	H25 県比 69.0 → H26 県比 96.4

＜質問紙調査「教科の授業の内容はよくわかりますか」の回答＞

「当てはまる」・「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合

国語	本校	県
中1	95%	89%
中2	100%	85%
社会	本校	県
中1	100%	84%
中2	90%	80%
英語	本校	県
中1	83%	75%
中2	90%	67%

数学	本校	県
中1	100%	81%
中2	60%	71%
理科	本校	県
中1	89%	85%
中2	90%	79%
5教科平均	本校	県
中1	93%	83%
中2	86%	76%